

団体名	特定非営利活動法人 マザーハウス
助成額	500,000 円
申請事業名	受刑者・出所者の心のケア強化プロジェクト
HP	<a href="https://motherhouse-jp.org/">https://motherhouse-jp.org/</a>

## 活動・事業報告

当法人が取り組む課題は、受刑者・出所者の「孤独」です。この孤独の解消に向け、受刑者に対しては文通のボランティアとの心のふれあいをしてもらうこと（長年のコア事業）、会報誌「たより」を通じた「回復プログラム入門」（2019年よりスタートした新しい試み）にともに取り組みでもらうことをしました。NHK等でのメディア出演もあり、社会にいる文通ボランティアは現在全国に約350名まで拡大し、全国の受刑者約800名と心の交流をしてもらっています。

また、社会での更生に取り組む出所者に対しては、マリアカフェ（2018年9月立ち上げ）を活用した居場所づくりをはじめ、2019年4月からは一人ひとりへの細やかなメンタルケアを行うため山下清美氏（カウンセラー）による個別相談会をひらくことにしました。するとマザーハウスで過ごす日々の中で、一人ひとりが社会復帰に向けて抱える悩みや心の問題がさまざまに異なることが見えてきました。毎月3～4名が相談室を利用しており、年間で延べ約50名近くの利用がありました。

## 助成金を受けての成果とその自己評価

2019年度4月から（助成金を受けて）新たな試みが、毎月の会報誌「たより」を通じて「回復プログラム入門」に受刑者のみなさんに取り組んでもらうことです。自分の感情や気持ち、考えを書き出して向き合ってもらうことを始めたところ、「悪口や嫌な気持ちばかり書き出しがちになるが、感情も書き出しておくと読み直した時に良い気分になれる」（要約）といった感想があった。また、受刑者と文通を行うボランティア側と出所者（元受刑者）とで「刑務所にとって手紙はどのような存在なのか」について考えを共有した「文通講座」（2020年1月開催）では、20名以上の参加があり「何気ない文通のやりとりだが、相手の孤独から更生への道に寄り添う気持ち」を改めて

共有することができました。

<https://motherhouse-jp.org/report20200125/>

社会の中で社会復帰に取り組む出所者に対する個別カウンセリングでは、やはりグループミーティングではケアしきれない（人前で話すことができない）一人ひとりの心の問題に寄り添うことができているためか、「日々のプライベートな話や仕事の悩みなどを聞いてもらえて励まされる」との参加者の声もありました。単純な話し相手と（精神科医的な）専門的な話し相手の中間のような存在である山下氏の人柄もあり、自分の感情や考えを素直に吐き出す（言葉にする）練習にもなっているものと思われます。

## 今後の活動の展望

受刑者・出所者の心のケア強化プロジェクトを通じて、心の土台を徐々に築いていくことができています。今後もこの活動を続けながら、さらにもう一歩社会復帰に近づくために、「就労支援（教育）」にも力を入れていきたいと考えます。というのも、当法人が就労訓練として行っている便利屋業をやっているなかで、出所者自身から「せっかくならオリジナルの作業着（制服）がほしい。お客さん先に堂々に行けるように」といった前向きな提案が出てくるようになりました。あるいは、職業訓練に通う者や、得意とすることを見つけて

始める者、動画編集に関心を持つ者なども出てきている。個別メンタルケアを通じてこそ見えてきた一人ひとりの違いが、それぞれのかたちで何かにつながっていくことが起き始めていく。

しかし、通常の営利企業と異なり、教育や研修のための費用を支出することは難しいため、クラウドファンディングやこうした助成金を活用させていただき、社会復帰をもう一歩前進させる教育や就労訓練のプロジェクトを展開していきたいと考えます。

